

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名：北海道・東北

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
全道県 北海道・宮城県・福島県 青森県・山形県	【若年層献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> 若者を対象とした広報及び献血キャラクターを活用した啓発資材作製、配布 ポスターコンクールやショートメッセージの募集を通じた献血教育の推進 学生協力団体組織化の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 若者に人気のあるラジオ番組とタイアップし、番組やラジオCMを通してティーンズドナーへのPR活動を実施。 国から年度末に配布されている献血思想の普及啓発用教材の「HOP STEP JUMP」の活用について、教育庁が各学校長あて通知を出しているが効果的に活用されていない。 受賞作品を県内の各学校等に配布、CM化してキャンペーン期間中に放送 学生献血推進連絡会で開催しているキャンペーン等では、年々認知度も高まり、献血受付者は増加傾向。しかし、各大学内での世代交代がスムーズに行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生ボランティアのキャンペーン等への参加を増やすため、各校JRCへの呼びかけを積極的に行う。 「HOP STEP JUMP」の効果的な活用については、配布時期を早めるなどの変更が必要であると考え。 学生協力団体組織化の促進については、平成21年度以降も、代表者の卒業等によって組織が減弱することのないよう組織の維持対策が重要。 高校献血で400mL献血を受け入れてもらうような啓発活動も今後重要になると考える。
全道県 青森県 全道県	【安定的な集団献血の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> 県(保健所)、市町村、血液センターの3者が一体となって、企業等への訪問及び集団献血の協力要請 各事業所にアンケート実施。事業所の人数、希望日、緊急配車の可否等の調査。 定点献血の実施 県庁、市役所等での定期的な献血の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 新規協力事業所の開拓や協力事業所の複数回献血の実施を要請 小規模事業所が多く、献血車の移動時間が増えている。 献血ルームのない地域でも定期的に献血に協力できるよう土曜日に行うことで、より献血者を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して、事業所に対する事前渉外の徹底を図るとともに、企業の中心的人物に対し、集中的に普及啓発活動を行い、その人物を通じて企業内部からの献血協力体制を構築できるような態勢を整備していく。 ボランティア活動の一環として、職専免等、献血のしやすい環境整備
全道県	【複数回献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> 赤十字血液センターが進める複数回献血クラブ会員の募集を通じて献血者の確保、協力要請 企業に対する複数回の献血の受入要請 県庁内インフォメーション及び市町村会議における複数回献血クラブの広報 	<ul style="list-style-type: none"> クラブ会員に対し、定期的に献血以外の情報(商店街のキャンペーン等)を発信し、常に献血を意識付けることができた。 血液型別の不足時に献血協力情報を発信し、期待された献血協力応諾率が得られた 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して、事業所に対する事前渉外の徹底と、複数回献血クラブの普及拡大を実践する。 テレビ等を活用した複数回献血クラブのPR。 システム変更時の周知の徹底。 パケット料金の問合せがある。お金がかかりにくいシステムの構築が必要。

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名: 関東甲信越地区

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
栃木県	【若年層献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ○高等学校における献血の実施 ○学生献血推進連盟「かけはし」への活動支援 ○路線バス広告 ○劇場広告(シネアド)による普及啓発 ◎新成人及び高等学校卒業生に対する普及啓発 	<p>○高等学校における献血の実施 高等学校で献血を経験することで、その後も継続して献血を行う人も多く、複数回献血者の確保の効果がある。</p> <p>○学生献血推進連盟「かけはし」への活動支援 大学生の活動を支援することで、同世代の若年層に対する普及啓発を図る効果が大きく、10～20歳代の献血者数が前年度よりも増加した。</p> <p>○劇場広告(シネアド)による普及啓発 「はたちの献血」キャンペーンを中心とした3ヶ月間(県内2か所、延べ1,800回)放映し、2～3月における10～20歳代の献血者数が前年度よりも増加した。</p> <p>○新成人及び高等学校卒業生に対する普及啓発 血液の不足する時期に合わせて、効果的に啓発することができた。</p>	
群馬県		<ul style="list-style-type: none"> ◎献血に関するコンピュータゲームの作成 ・高校献血協力校に対する啓発資料の送付 	<ul style="list-style-type: none"> ・献血に関するコンピュータゲームの作成 委託業者決定の際には、公募による一般審査員を含め、公開審査を行った。 今後、ゲーム公開に際して、広く県民に周知する方法を検討。 ・高校献血協力校に対する啓発資料の送付 クリアファイル40,000枚を作成し、全校生徒に配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・献血可能年齢に達する前から、少しでも献血に関心を持ってもらうために作成。少なくとも「献血を知らない」と回答する者を減少させるため、さまざまな啓蒙活動を行っていくことが必要。 ・日常生活の中に献血という言葉・行為をいかに浸透させていくかが重要。
埼玉県		<ul style="list-style-type: none"> ①高校生による献血メッセージの放送 ②高校訪問(保健所、市町村、血液センター、合同) ③小中高校生に対する献血出前講座の実施 ④卒業献血キャンペーン 知事・教育長連名で各県立高校長あてに、献血思想の普及啓発及び校内献血への協力について通知した。 	<p>効果として</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校を通じた効果的な働きかけができた ②若者達のネットワークなどを活用した友達からの献血呼びかけができた ③各高校に対する献血の啓発ができた <p>県立高校における献血実施校数が増加した(150校中47校→150校中78校)</p>	

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
千葉県		<p>【県】</p> <p>①中、高校生の献血推進啓発作品(ポスター)の募集</p> <p>②公共交通機関による広告</p> <p>③成人式に配布する献血啓発用リーフレット作成</p> <p>④中学生向け献血啓発用テキストの作成</p> <p>【血液センター】</p> <p>小学校献血学習会(スライド、ビデオによる血液の働きや献血の意義などについて説明、施設見学)</p>	<p>①中学生に対して献血の重要性、必要性を認識させることができた。また、高校生を対象とした献血ポスターの募集依頼を通じ、高校生に対して献血思想の普及を実施した。</p> <p>②広く県民へ広報するために、県作成のポスターをJR車両の中吊りや駅貼りとして掲示した。</p> <p>③中学生を対象にテキストの作成や献血推進啓発作品を募集することにより、献血への理解を求め、将来にわたっての献血者の確保が期待できる。</p>	<p>【県】</p> <p>献血可能年齢に達する前の年齢層に対して献血への理解を深める必要があることから、小学生や中学生を対象にした啓発テキストの作成と教育の一環としての献血思想の普及を要望する。</p> <p>【血液センター】</p> <p>小学生献血学習会のプログラムについては、魅力あるものの企画が必要であることから、平成20年度において、県子ども病院見学を設定し、輸血医療現場に関する情報を提供しながら、献血の啓発を図ることとする。</p>
東京都		<p>①日本ラクロス協会による協力。</p> <p>②春期及び秋季において主に大学の献血会場で、グループ献血キャンペーンを展開。</p> <p>③授業時間に併せた受付時間の弾力的な運用。</p> <p>④若年層を対象とした400ml献血協力啓発看板作成。</p> <p>⑤卒業記念献血会の開催。</p> <p>⑥献血ゼミナールの開催。</p>	<p>①ラクロス協会の協力により多くの学生の協力が見込める(実績:受付705人)</p> <p>②キャンペーンの展開で献血に関心を示し、献血を経験していただき今後につなげ、複数回ドナーとしての定着を図る。</p> <p>③事業時間の制約を減らすことができる。</p> <p>④視覚的に訴えることができる。</p> <p>⑤卒業を迎える高校3年生向けに学内献血会を開催する。</p> <p>⑥20年度においては募集範囲の拡大及びその受入体制を十分に検討する。</p>	<p>献血推進の広報活動には、医療の現場が若者に直接伝わるような広報も必要である。</p> <p>大学・専修学校等へは赤十字の渉外担当者がサークル代表者や学生に直接広報活動に当たることはもとより、国から支援も必要である。</p> <p>若年層の献血者確保と献血について、学校教育のなかで、青少年の情操教育の一環とすることも必要と考える。</p>
神奈川県		<p>・小中学生を対象とした献血に関するポスターコンクールの実施(平成10年度～)</p> <p>・高校生を対象とした献血ボランティアスクールの実施(平成18年度～)</p> <p>・県下の大学ボランティアを柱とした献血推進イベントの開催(平成16年度～)</p>	<p>・各種普及啓発事業において同種のコンクールを同時期に実施しているため、応募者の分散もしくは同じ応募者が何年も続けて応募する傾向にある。</p> <p>・献血ボランティアスクール 実施日数:夏休み5日間、冬休み1日間 参加者:のべ45名 座学や体験を通じて参加者の献血への理解を確実に深めることができた。</p> <p>・県内8大学(10サークル)が参加し、各ボランティア活動の内容をパネル展示や映像で紹介するとともに、FMヨコハマとタイアップし、「ボランティアの大切さ」を電波に乗せ、県民に広くPRした。</p>	<p>・少子化により、応募者が減少しつつあるが、若年層の献血への理解を促進するための重要な事業として継続していく。</p> <p>・献血現場での実体験の場であり、事務局側の指導できる体制に限りがあるが、高校生を対象とするこの事業の意味と効果を踏まえながら、着実な事業として継続していく。</p> <p>・大学献血は重要な献血源であることから、大学生ボランティアとの連携を密にすることにより、大学献血推進のための協力的基盤を築くために今後も継続していく。</p>

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
新潟県		<ul style="list-style-type: none"> ○高等学校における献血講演会の開催 ○高等学校における卒業献血の実施 ◎小中高生を対象とした献血ルーム見学会の開催 ○大学、専門学校等への積極的な献血バス配車 	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭研修会などの場で協力を呼びかけているが、時間確保が困難等の理由で協力校は少ない。 講演会: 7校 卒業献血: 6校 ルーム見学会: 7校 ・10代、20代の献血者の構成比は全国平均を上回っている。 	
山梨県		<ul style="list-style-type: none"> ◎中学3年生を対象とした献血啓発リーフレットの作成及び配布 ・はたちの献血キャンペーン ・学生献血の組織化(学生献血推進連絡会) ・高校献血の実施 	◎前年度に行った献血に対する意識調査結果をもとに啓発リーフレットを作成し、中学3年生に配布した。 普及啓発のため、すぐに効果は検証できないが、将来に亘っての献血者確保に期待できる。	今後も、若年層を対象とした啓発リーフレットを継続的に作成していく予定である。
長野県		<ul style="list-style-type: none"> ○高校生献血の推進 ・校長会、保健主事会議等での献血実施要請 ・高校個別訪問による献血実施依頼 	各高校とともに献血の必要性は理解しているが、学校単位での献血の実施については、責任の問題等の理由により献血車の受け入れに抵抗がある。また、啓発についても時間が取れないとの回答が多い。	本年度から中学生・高校生から献血の推進に関するポスターを募集し、啓発を図ることとしている。
茨城県		<ul style="list-style-type: none"> ①高校献血キャンペーンの実施(11月～3月) ポスターデザインコンクール 各高校への啓発ポスター・チラシの配布 高校生へのアンケートによるデータ収集 ②小学生を対象とした「夏休み親子教室」 ③高校生を対象とした血液センター、献血ルームの見学とボランティア体験 ④高校、大学の文化祭でのパネル展示とクイズ大会 	<ul style="list-style-type: none"> ①高校献血実施校 78校/132校 ②アンケート協力者 818名 ③親子教室参加者 44名 見学会等参加者 1校20名 ④実施校 高校2校、大学1校 効果:普及啓発により高校献血者は前年度より137名増加した。 	
栃木県	【安定的な集団献血の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ○献血組織の育成強化 ○企業等に対する複数回実施の協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ○献血組織の育成強化 献血会登録制度を実施し、定期的な献血の実施及び献血会による普及啓発を図ることができた。 ○企業等に対する複数回実施の協力依頼 血液が不足する夏季及び冬季を中心に、協力的な企業等を確保することができた。 	

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
群馬県		企業献血の推進(保健福祉事務所管内事業所等担当者研修会の開催, 献血協賛企業活動推進事業の実施)	平成20年1月～2月の間, 保健福祉事務所において各管内事業所等を対象に研修会を開催。しかし, 保健福祉事務所によっては, 参加者が集まらず, 開催できないところもあった。 また, 血液センターが企業献血実施の渉外時に献血サポーターの募集を行った(訪問企業125社)。しかし, 手続きが面倒とのことで, 協賛してくれた企業は52社であった。	献血協賛企業ロゴマークの社会的認知度を向上させ, ロゴマークを取得することによるメリットを高めていく必要がある。
埼玉県		血液センター(市町村・血液センター・保健所合同)による事業所訪問活動の実施	合同による事業所実績は3件で, うち1件が献血を実施し, うち1件が本年度献血実施予定	
千葉県		<p>【県】 各種献血キャンペーンを実施するとともに, 血液センターが実施する献血サポーターの登録事業等に協力する。また, 血液製剤の在庫状況を把握し, 不足時には対応マニュアル等に基づき「緊急アピール」等を実施する。</p> <p>【血液センター】 1. 企業等組織的な献血の確保 ①献血協賛企業活動推進事業(◎) ②大口企業の年2回から年3回への献血実施回数への協力要請 ③400ml献血の推進 2. 献血推進キャンペーンの実施等 ①愛の血液助け合い運動(7月) ②はたちの献血キャンペーン(1～2月) ③千葉県公務員職場献血推進月間(8月) ④千葉県献血推進強調月間(2月) ⑤学生サマーキャンペーン ⑥学生クリスマスキャンペーン</p>	<p>【県】 各種広報媒体(県民だより, 市町村広報紙, 在葉報道機関, BeyFM等)に献血関連情報を提供するとともに, 献血会場における啓発物の配布を行いながら400ml献血及び成分献血への理解促進を図った。併せて, 輸血用血液の安全性確保のため, 感染症の検査を目的とした献血を行わないよう周知を図った。 ・献血サポーターの登録24団体への推進を行った。</p> <p>【血液センター】 ・新規企業等の開拓実施(38件登録), 大口企業(3か所)の年間採血回数を年間2回から3回に増加。 ・ポスター及びちらし配布による400ml献血の必要性を訴えた(400ml献血率72.2%:前年を5.1ポイント上回った)。</p>	
東京都		社内メールを活用し職員に周知して頂く。 事前に社内放送の原稿を作成し, 献血の必要性(血液型指定等)を職員に伝える。 関連会社等に連絡をして頂き増員を図る。 未実施企業への働きかけ。 実施回数の増回。 休眠団体の掘り起こし。 献血協賛企業シンボルマークの活用, 普及を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・当日献血実施を忘れていた職員に連絡することができた。 ・気象状況に左右されやすい街頭実施を減らし安定的な血液確保が図れる。 	企業で年間に複数回献血を実施している献血者を対象に「献血ルーム」とは異なるポイントキャンペーンを展開する。

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
新潟県		◎県経営者協会加入企業を対象にアンケートを実施 ○献血協力企業名を新聞広告に掲載	・新規協力企業の確保につながった(約30社)。 ・団体、事業所から献血実施について打診があった。	
山梨県		・企業巡回時の協力要請 ・献血名簿の作成	・新たに7団体の企業協力を得ることができた。 ・献血名簿を作成したことにより、より計画的な移動献血が可能となり、延べ325箇所において献血を実施することができた。	さらに、名簿搭載企業を増やすことに努め、献血事業の拡充を図る。
長野県		○企業献血の占める割合が高いので、渉外を充実(センター)	・企業の献血者数も減少傾向にある。 ・年間採血量の規制により配車日の設定が難しい。	センター、保健所、市町村による企業への事前訪問の実施
茨城県		①市町村献血推進事業費補助金の交付 ②新規事業所等の開拓	①市町村献血支援団体への費用助成 H19交付実績額: 5,005千円 ②新規事業所等: 54ヶ所	補助金の縮小又は廃止を検討中。
栃木県	【複数回献血者の確保について】	○複数回献血クラブ会員募集 ○健康相談事業の実施 ○成分献血ポイント制の実施	健康相談事業の一環として、「ハンドマッサージ・ヘッド・マッサージ」サービスを実施したほか、献血ルームでのネイルアートのサービス効果もあり、多くの献血者を確保することができた。	
群馬県		複数回献血クラブの登録推進	血液センターが行う「複数回献血クラブ」についての広報協力	
埼玉県		①携帯メールクラブによる呼びかけ ②葉書による呼びかけ	献血者が確保できた。	携帯メールクラブの充実
東京都		携帯電話のメール機能の活用。 採血終了時に次回の献血をお願いする。 初回献血者へのお礼状送付。	携帯メールクラブ登録者は19年10月から会員増強、予約推進キャンペーンを実施し20年3月末までに約25,000人に達した。特に2月にはルームでの献血者35,000人に会員パズルを配布し登録推進キャンペーンを実施し、約1,800名の登録を得た。メールクラブでは毎月約6,000人に成分献血を中心に依頼メールを配信し応諾率は約25%である。	携帯メールクラブの会員増強。 400ml献血献血者への入会推進。 移動採血現場での入会案内配布。

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
神奈川県		・効率的な採血計画を立てるため、企業、街頭等の見直しを行うとともに、多回数献血者への表彰、新規企業の開拓、企業への複数回協力の依頼を行った。 ・協賛企業(献血サポーター)の募集を行った。	・新規企業の開拓 50社 ・複数回協力が得られるようになった企業 19社 ・協賛企業 67社	
新潟県		○献血メールクラブ会員の拡充	・会員数 1,122人(20年3月末)	目標会員数 3,000人(21年度末)
山梨県		血液センターにおいて、献血者に対し献血登録制度・献血メールクラブについて理解を求め、血液不足時に登録者に対し、葉書やメールで要請している。	「献血メールクラブ」への呼びかけを行った結果、会員数が約700名となった。	
長野県		○はがきや電話での協力依頼(センター) 献血間隔の空いている登録者への協力要請 ○定例献血スポットキャンペーン	・新規登録者が伸びていない。 ・同じ場所、同じ月、曜日に献血を実施することにより、複数回献血がしやすくなる。	
茨城県		①複数回献血クラブの登録推進 ②複数回協力事業所の推進 ③ハガキでの協力依頼 ④移動献血でのポイントカードの配布	①登録者数 2,160人(年間登録者数:979人) ②複数回協力事業所 14事業所 ③応諾率 22.9% ④ポイントカード持参者 1,522名/16,700名	

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名：東海・北陸・近畿

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
石川県	【若年層献血者の確保について】	①小学生を対象とした献血の学習と見学会を実施 ②中学生から献血教育推進 ③県内高校1年生に啓発パンフレットの配布 ④大学祭での献血キャンペーンの実施	①小学生323名(保護者含む)の参加があった。 ②中学校を対象とした献血ポスターコンクールの実施。優秀作品を献血普及啓発資材として活用。 ③献血できる年齢に達したときの、献血の正しい知識の普及啓発。 ④大学祭において啓発資材を配付すると同時に採血を実施	引き続き計画、実施の予定
福井県		・「はたちの献血」キャンペーン中に、若年層を含め安定した集客力のある大型ショッピングセンターに臨時採血所を開設 ・学生献血推進連盟の活動による献血の実施と広報活動	・6日間の臨時採血所の設置で、817人の献血実績。	・若年者の確保には有効な取組であり、21年度も引き続き計画に組み入れる予定。
岐阜県		・リーフレットの作成 中3、高2の学生を対象にリーフレットを配布 ・学校関係者への協力依頼 県内の概ねすべての高校、短大、大学、専門学校を保健所担当者が訪問し、協力依頼 高等学校校長会、高等学校保健担当者会で協力依頼 ・「高校生の献血推進提案」を募集	・将来の献血者の安定確保に向けた啓発 ・高校生の献血に対する関心度の低さの把握(提案数:37件) 献血をした血液をどのように、誰のために使われているか等、基本的な事を知りたいとの意見が多かった。	・リーフレットの作成及び学校関係者への協力依頼は継続実施 ・高等学校において、移動採血車を持ち込み高校生を対象とした献血啓発出前講座の開催
静岡県		①高校生を献血広報ボランティア「アボちゃんサポーター」に委嘱し、保健所とともに地域、学域において啓発活動や献血広報を実施した。 ②高等学校養護教諭と意見交換会を開催した。	①若年層の献血思想の定着、初回献血の実施がなされた。 ②高等学校等の連携が図られた。	高校生を献血ボランティアに委嘱し、広報活動を行うことにより、若年層に対する献血思想の定着が図られている。
愛知県		若年層に対する知識普及及び啓発	①高校0年生全員、大学生及び新成人を対象としたパンフレットの配布 ②小学生の親子を対象とした夏休み親子献血教室の開催 ③学生献血連盟との協働によるクリスマス献血キャンペーンの実施	若年層への献血思想の普及
愛知県赤十字血液センター		愛知県学生連盟加盟校19大学の献血ボランティア担当者合同による献血を実施。 各学内献血時の推進活動育成指導を実施	年3回の合同献血実施、延べ献血者数773名 学内献血実施、延べ回数51回、献血者数2,492名	献血初回者の確保に繋がる学内献血実施

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
三重県	【若年層献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> 1 高校生、大学生を中心とした協力組織による活動 (県から連絡協議会に業務委託) 2 学生献血推進協議会の開催 3 市町成人式において啓発資財を配布 	<ul style="list-style-type: none"> 1 各キャンペーンにおける啓発活動の協力、血液センターの見学会を開催。 2 学生献血推進協議会で各キャンペーンの協力等についての意見交換会を開催。(3回開催) 3 市町の協力により、新成人に啓発ティッシュを配布。 	特になし
滋賀県		<ul style="list-style-type: none"> ・学生献血推進協議会への活動支援 ・大学等への広告協賛、勧誘窓口の設置、クラブ単位での献血の実施 ・献血学習事業 	<p>学生協議会による夏・冬・バレンタインキャンペーン等により、若年層への献血の呼びかけを実施。クラブ単位での献血は、現在2クラブのみであり、他の部へ拡大するのが困難である。</p> <p>中・高校生を対象とした、国および県の啓発資材(ポスター、冊子)を活用した啓発を実施。</p>	<p>学習事業の全高校での実施は困難であるため、文部科学省からの積極的な働きかけも望む。</p> <p>また、授業のための先生用のマニュアルを希望する声が多い。</p> <p>学習事業を低年齢(中学生)にも行っってはどうか</p>
京都府		<ul style="list-style-type: none"> 1 京都府学生献血推進協議会への支援と協働 2 大学等への働きかけによる大学献血の推進 3 若者向け広報媒体の活用による啓発の実施 4 子ども達と保護者を含めた献血施設見学会の実施 	<p>若年層自らがキャンペーン等を通じて献血の重要性を広く訴え、若年層の共感を得ることにより、若年層献血を推進する、また子どもの頃から献血・命の大切さを知ってもらう。</p>	<p>大学献血における献血不適格者に対する栄養指導等サービスの提供</p>
京都府赤十字血液センター		<ul style="list-style-type: none"> ①18歳からの献血体験キャンペーン 府内の全高校3年生約26,000人に献血啓発リーフレットを配布、11月末～3月にかけて献血に来られた方で希望者には献血セミナーとアンケートを実施。 ②青少年赤十字(JRC)との連携 ・JRC高校生メンバー協議会で献血セミナー実施(献血ルーム見学・呼びかけ活動) ・JRCTトレーニングセンターのプログラムとして小～高校生、保護者150人に対し、献血クイズ大会を実施 ③献血ルームでの献血セミナー実施 ・夏休み期間に、小学生とその保護者対象に献血セミナーを実施 ・若年層対象献血リーフレットを作成 ④看護学生への献血啓発活動 ・第一日赤看護学校、京都中央看護学校、京都府医師会看護学校の新生生に対して、研修を実施、希望者は献血ルームにて献血。 ⑤大学生への献血啓発 ・学生用機関紙「ガクシン」への献血PR記事の掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度から私立も含めた京都府内の全高校に配布を行った。より広く献血啓発は行えたが、昨年度に比べ、献血ルームの来所者数が伸びなかった。 今後は「配布」プラス何らかの働きかけが必要と思われる。 ②京都府支部との連携によって、JRCの活動に「献血」を組み入れる機会が増えた。研修・クイズ大会の実施は今後も継続する。 ③19年度からセンター主催で夏休み期間に献血セミナーを実施。総計112人の参加となり、実施後のアンケートも概ね良好な反応が多かった。 ④入学時期に合わせ、献血ルームで「新生生キャンペーン」を行うなど、1年生からの献血協力への意識付けに力を入れた。 	

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
大阪府	【若年層献血者の確保について】	<p>◎ 大阪府血液センターと連携し、「卒業記念献血」として高校卒業生を対象にチラシを配布し、400mL献血を推進した。</p> <p>◎ 雑誌広告への掲載を通じて啓発を実施した。</p>	<p>高校生に献血の重要性を訴える機会を設けることができた。</p> <p>214名/3月末現在</p>	<p>今後とも、若者を対象とした啓発を実施していく。</p>
大阪府赤十字血液センター		<p>① 小学生を対象とした「献血おもしろゼミナール」の開催(平成8年より実施)</p> <p>② 大学生を対象としたセミナーと施設(血液管理センター)見学</p> <p>③ 高校生を対象としたセミナーと献血ボランティア体験学習の実施</p> <p>④ 「学生400mL献血キャンペーン」の実施</p> <p>・19.10.01～20.03.31の期間で実施</p> <p>・対象者はキャンペーン指定学校で400mL献血の協力者に対してカップ麺を配布した。</p>	<p>① 平成19年7月26日～8月7日までの間の8日間開催・参加者数1,786人の参加(保護者を含む)</p> <p>② 平成20年3月14日実施</p> <p>・参加者数21人の参加(管内の学生献血推進協議会メンバーが主体)</p> <p>③ 平成19年8月24日実施</p> <p>・参加者数10人の参加(府内の公立、私学の3校の生徒を対象)</p> <p>・参加高校数が少数であった。</p> <p>④ 協力者数:4,000人(先着)</p> <p>・記念品が好評であり、前年度比130%の実績であった</p>	<p>① 血液センター施設の受入体制に限界はあるものの、今後は更に教育委員会の協力を得て参加数を増加させたい。(広報関係を含む)</p> <p>② 今後は、血液センター、及び行政のホームページや広報などによって、幅広く若年層の参加を呼びかけていきたい。</p> <p>③ 上記、②と同様の対応を行いたい。</p> <p>④ 今後、記念品に選定については、学生の意見を取入れていきたい。</p>
兵庫県・兵庫県赤十字血液センター		<p>◎ 平成19年度から高校生有志が文化祭等の場を活用し、同世代への献血啓発活動を展開するボランティア活動を支援している。</p> <p>『18歳の献血キャンペーン』チラシの活用</p> <p>平成19年11月兵庫県、兵庫県教育委員会の協力により県内県立高校3年生約3万人に「アンパンマンのエキス」や県内献血ルーム案内のチラシを配布した。</p>	<p>平成19年度は22校(221名)がボランティアとして事業に参加し、献血啓発活動を行った。</p> <p>採血車の配車を条件に事業を実施すると申し出た高校があったが、結局、配車されなかったため、事業実施を断念するケースがあった。</p> <p>“チラシ効果”としての確証はないが、兵庫県内の10代の献血者数(11月～3月)は以下のとおり。</p> <p>[単位=人]</p> <p>16歳 17歳 18歳 19歳</p> <p>18年度 359 510 1,042 1,711</p> <p>19年度 344 418 1,190 1,636</p> <p>18歳のみが対前年を上回っていることから、今後実施する。</p>	<p>地域献血推進団体、大学生等との連携による地域ぐるみの献血普及啓発の実施</p> <p>平成21年度については、チラシ配布のみでなく、併せて高等学校(学内)での献血説明会の実施を依頼する予定。</p> <p>また、私立大学などからも献血時に配布希望があることから、他公立、私立高校にも活用したい。</p>
奈良県		<p>将来の献血を担う若者に対する献血の意義や必要性の知識普及</p>	<p>啓発物品配布とともに、高等学校等には生徒への献血啓発に対する理解と協力を求めているが、学校単位の「高校生献血」推進は、困難である。</p>	<p>学校で実施する「高校生献血」は、日常的善意として気軽に献血するきっかけとなるが、400mL献血は18歳以上であるため、効果的な学習や啓発に重点を置く。</p>

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
和歌山県	【若年層献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ・県学生献血推進協議会への支援 ・高校文化祭、大学祭における啓発及び献血 ・ポスターコンクール実施 ・手提げバッグに県ロゴマークを使用 ◎「広げよういっしょに献血」TVスポット放映 ・「はたちの献血」キャンペーン実施 ・イベント会場での「親子献血クイズ」実施 ・高校生対象献血体験講演会開催(20年度新規) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生協議会が、県内献血状況を学内に掲示し献血協力を促した。 ・献血思想の普及向上に寄与。 ・献血協力への動機付けに寄与。 ・9高校119点応募、参加型啓発実施。 ・優秀作品を啓発資材に活用。 ・手提げバッグは歩く広告塔。 ・15秒TVスポット45回放映しPR。 	<p>継続実施</p> <p>20年度以降中学生も対象とする。</p>
富山県・富山県赤十字血液センター		<ul style="list-style-type: none"> ◎献血推進広報番組「献血に行こう」の制作 県広報番組「こんにちは富山県です」 H20.1.12放映 新成人をターゲットにしたもの ◎ショッピングセンターでの献血推進懸垂幕掲示 ・映画館での献血啓発CMの上映(H17～) ・若年者献血セミナー事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・はたちの献血キャンペーン期間中に放映 ・駅前の献血ルーム入居ビルなので学生等多くの者にPRすることができた ・15秒CMであるが徐々に浸透している(6月間) ・看護学校(2校)、短期大学(1校)、JRCTレセン(1回)4月～8月に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ☆新高校三年生全クラスヘジャンボ黒板消しを配布 ☆ポケット時刻表を活用しての広報啓発 ☆JRコンコース踏み込み広告
石川県	【安定的な集団献血の確保について】	情報の収集を行い新規協賛企業の確保に努める。	新規協賛企業・新規献血団体を確保	引き続き計画、実施の予定
福井県		<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話を利用して、あらかじめ登録していただいている方にメールで献血のご案内やキャンペーン用クーポンを配信(複数回献血クラブ・血液センター独自携帯サイト) 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した血小板製剤の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・21年度も引き続き計画に組み入れる予定。
岐阜県		<ul style="list-style-type: none"> ・献血協力団体との協働、意見交換 ぎふ献血サポーターズクラブ(献血ボランティア団体及び企業の横断的組織) 	献血者減少時期における組織的協力の確保	継続実施
静岡県		<ul style="list-style-type: none"> ①県庁や県の出先機関を会場とした献血を定期的に実施するなど献血に協力した。 ②献血協力団体「アボちゃん協力会」に定期的に献血情報を提供する等一層の協力を求めた。 	献血に協力しやすい環境整備が図られている。	特になし
愛知県		集団献血推進のため、企業等の献血組織の育成	貢献度の高い企業等の献血組織を対象に、愛知県献血運動推進大会において知事感謝状を贈呈	組織的な献血者の確保
愛知県赤十字血液センター		<ul style="list-style-type: none"> 優良団体、年1回の献血協力を2回以上実施する。 ・新規団体の確保を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 従来より献血団体内(社内)の合意が得にくい状況のなか15社以上の年間2回実施を行った。 また、25社の新規団体を確保した。 	新規団体の確保により充実した年間採血計画を行うことが出来る。

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
三重県	【安定的な集団献血の確保について】	1 献血実施場所の近隣企業への協力依頼 2 大企業、官公庁の献血実施時の通勤時の献血呼びかけ 3 血液センターHPを随時更新し、バスの配車予定や不足している血液型等の情報を呈示	1 近隣企業からの協力を得られた。 2 献血実施日の早朝、通勤時にティッシュを配布。 3 HPにより、献血場所、不足血液型の周知並びに献血メールクラブの会員募集を実施。	特になし
滋賀県		・年1回であった実施先に2回の取組を依頼 ・ロスタイム軽減のため、献血申込者があらかじめわかるころは時間割の作成を実施先に依頼	待ち時間の短縮とロスタイムの軽減の効果があつた。	
京都府		1 事業所への協力要請 2 移動採血車の配車体制の整備	事業所での献血は、安定的な血液の確保が図れるが、業務中断を理由に協力が得られない場合がある。大型店舗では休日の場合、駐車場の確保が困難	
京都府赤十字血液センター		① 献血協力企業に対して事前渉外活動を充実させ献血日等の周知を徹底してもらう。 ② 献血会場周辺企業に対する献血協力依頼の推進 ③ 定期的(年複数回)に実施してもらう献血協力企業の確保 ④ 大学での献血実施時に、学生献血推進協議会と連携をとった取組みとしていく。	・企業サイドの事情(業績が伸びていると忙しく協力が減るケースもある)を事前に掌握でき予定人数の予測が付く。 ・会場周辺企業にお願いし、1名でも協力者が増える。 ・大学での取り組み時に、学生の呼掛けが増加することで、協力者が増えた。	
大阪府		◎市町村献血推進協議会個別に訪問し、集団献血のお願いを行った。	各市町村において地域密着型の献血推進が図られ、献血の一定確保が図られている。	今後とも、市町村献血推進協議会を連携し、安定的な集団献血を実施していく。
大阪府赤十字血液センター		①ロータリークラブの例会時における「団体献血の取組」に関するアンケートの実施	①12団体の新規協力があつた。また、国際ロータリー2660地区でのキャンペーンも実施していただいた。(5,000人の400mL献血の確保に努めていただいた)	①移動献血車の配車可能な規模の企業が少ないため、献血ルームなどの固定施設に合流していただくなどの取り組みを行っていく。
兵庫県・兵庫県赤十字血液センター		献血者の減少傾向がみられる夏季(8月)及び年末年始(12～1月)の期間を献血推進強調月間(期間)とし、この期間に、県内の主要企業・団体に対して協力要請している。 平成20年度においても同様に実施する予定。	平成19年度実績 ・夏季 協力依頼団体等数 87 ・年末年始 協力依頼団体等数 133	職場献血における受付時間の調整、参加しやすい環境づくり
奈良県		地域の住民や各種団体等への円滑な情報提供を目的とした市町村担当課職員研修の実施及び経営者協会等各種既存団体への協力依頼並びに献血に功績のあつた団体の表彰による献血推進組織の育成	研修受講者や献血協力依頼団体等、対象者が同じになりやすい。	献血協力団体・協賛企業の貢献について、高い評価が得られるなど実質的なメリットの制度化を推進して社会的意義を高め、企業等団体の献血への協力を強く誘引する。

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
和歌山県	【安定的な集団献血の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ・献血推進支部協議会活動における保健所、市町村、血液センターの連携 ・移動採血車運行日程を県ホームページに掲載 ・県職員、警察官、教員等による献血協力職務専念義務免除措置実施 ・献血サポーター参加企業の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村による地域団体、企業献血担当者への情報提供、情報共有実施等連携強化。 ・協力予定者に献血情報提供。 ・献血に参加しやすい環境づくり支援。 ・実施日に早朝ビラ配布。 ・新規、既存の団体から関連企業団体を紹介 	継続実施
富山県・富山県赤十字血液センター		<ul style="list-style-type: none"> ◎比重不足などで献血できなかった者に対しての保健師による健康相談の実施 H19.6～H20.3 27回 対象者222名 ・献血協力団体への複数回献血への協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・県厚生センター、中核市保健所の協力を得て実施しており、対象事業所などからは大変好評であるが、保健師の確保や事業所との調整が大変である。 	☆女性のみヘモグロビン測定器でチェック
石川県	【複数回献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ①複数回献血クラブのポスター、リーフレットを大学・事業所、採血現場等で配布 ②健康相談事業(肝炎関係(月1回)、健康全般(月2～3回))の実施 ③ホームページの充実により募集の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①リーフレット作成し、固定施設・移動採血現場等で配付した。 ②健康相談(肝炎関係(月1回)、健康全般(月2回))の実施 ③ホームページの内容について全面更新した。 	引き続き計画、実施の予定
福井県		<ul style="list-style-type: none"> ・県庁、市役所等での定期的な献血の実施 ・新規事業所の開拓 ・事業所担当者との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した血小板製剤の確保。 ・職員の理解度の向上、献血者数の増加。 ・企業の地域貢献が明確になり、継続的な協力や緊急的な計画に対応できる。 	・血液を確保する上では非常に有効な取組であり、21年度も引き続き計画に組み入れる予定。
岐阜県		<ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血の推進 複数回献血者クラブの会員募集 同一企業へ複数回の配車依頼 新規献血者に対し再度の献血を勧めるリーフレットの配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血者の増加 	継続実施
静岡県		<ul style="list-style-type: none"> 血液センターが実施する複数回献血協力者確保事業に、県内市町とともに広報を行う等の協力を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数回献血者の増加 	特になし
愛知県		<ul style="list-style-type: none"> 複数回献血者層の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 400mL献血に特化した複数回献血キャンペーンの実施 	複数回献血者の増加

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
愛知県赤十字血液センター	【複数回献血者の確保について】	複数回献血者を献血者全体の35%まで上昇させる。 会報、電子メール等で健康増進や血液に関する複数回献血者へ情報提供を行う。	複数回クラブ会員を対象にヨガ教室講座を3回開 設 複数回献血者は、28%と昨年度より3%上昇した。	平成20年度より電子メールでの献血依頼を実施することとした。
三重県		1 献血応諾者に対する電話での依頼 2 定期的にキャンペーンを実施し、複数回献血者を募集 3 HPを随時更新し、バスの配車予定や不足している血液型等の情報を呈示	1 各献血会場で献血依頼応諾者の募集を実施。 2 血液型不足時に献血依頼応諾者に協力を依頼。 3 HPによる献血場所、不足血液型の周知、献血メールクラブの会員募集。	特になし
滋賀県		・複数回献血クラブの設置 ・クラブ会員への情報提供・献血依頼	リーフレット配布。 携帯電話、パソコンを利用した献血登録者の募集および複数回献血者に対する情報提供。 血液在庫不足時の献血依頼。	血液在庫不足時および平常時に登録者に対し、機動的・効率的に呼びかけを行うことが可能となる。
京都府		1 複数回献血クラブの充実 2 献血者への継続的な情報の提供	血液製剤の在庫不足時における献血者の確保	1年間の複数回献血者登録の目標値の設定
京都府赤十字血液センター		①新規会員の募集 ・献血ルームを中心に「登録強化週間」を設定し、対面による集中的な募集を図った。 ・移動採血では街頭献血、大学取組時に募集を行った。 ・会員向け情報提供チラシを新規募集時に活用した。 ・国庫補助事業として講演会、 ②会員への情報提供 ・キャンペーンやイベント情報などを毎月1回メール配信している。 ・会員向け情報チラシを作成・配付した(登録・情報変更等に関する内容)。 ③国庫補助事業 ・健康相談事業:ヨガ・ボールエクササイズの講座を開設 ・講演会:複数回献血クラブに関するミニ講演会とヨガ教室を実施 ・情報チラシを作成 ④献血依頼メール ・特定の血液型の血液が不足したときに献血依頼メールを送信した。	①登録強化週間の実績 3回実施し、210人の新規登録があった。年度の総登録者数の7.2%にあたり、効果が大きい。期間中、職員が手作り登録強化週間バッジを着用した第3回目は、103人の登録があった。 ②国庫補助事業 ・ヨガ・ボールエクササイズの講座(参加64名) ・ミニ講演会とヨガ教室を実施(参加20名) ③ 献血要請メール 延べ7回、1,849人に要請し、平均13%の応諾があった。応諾期間を1週間程度とした統計としては安定した数字となっている。 ④ 問題点 アドレス変更などによる不着が多く、メール配信が多ければ多いほど登録解除になってしまう会員が増えてしまう。新規増も大切だが、不着対策が重要になっている。	・緊急時の依頼と言うことを主眼に登録をお願いする。

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
大阪府	【複数回献血者の確保について】	◎複数回献血推進のためのキャッチコピー(標語)を全国から募集した。	全国から2880作品の応募があり、関心の高さが伺われた。最優秀作品を活用し、啓発物品やラジオ等で広報した。	今後も、献血推進啓発のための募集事業を実施していく。
大阪府赤十字血液センター		① 献血ルームなどでの「Eメールクラブ」会員募集に加えて、大学献血実施の際にも募集を行う。 ② 会員に対する献血要請、および情報提供の実施。	会員数:7,325人(平成20年3月31日現在)大学での献血時、担当職員が「Eメールクラブ」会員の特典を説明したところ、会員数が増加した。 ② 献血協力要請人数:延べ11,515人、情報提供件数:50件	「Eメールクラブ」会員の更なる確保のため、全献血会場(献血車を含む)において募集を行う。また、会員に対するリアルタイムな情報提供のための方策を検討
兵庫県・兵庫県赤十字血液センター		7月の「愛の血液助け合い」運動月間及び1～2月の「はたちの献血」キャンペーン等において、複数回献血についても併せて啓発することとしている。平成19年度においても同様に実施する予定。	市町広報誌(紙)等による献血ルーム、献血会等の紹介。 献血ルームから遠い地域では採血車による献血が唯一の献血手段であり、配車の有無が献血回数に影響する。	献血会場における栄養指導、住民健診の場における献血啓発等による献血者の確保
奈良県		報道機関への積極的な資料提供等の広報活動並びに街頭献血キャンペーンの実施による普及啓発	恒常的な血液不足状況に陥った場合、資料提供だけでは状況説明の繰り返しとなり、報道機関に取り上げてもらいにくい。	複数回献血を誘引する献血者サービスの実施等、注目されるような話題を効果的に報道機関に取り上げてもらう必要がある。
和歌山県		◎不採血者への健康アドバイス事業 ・複数回献血クラブ会員確保 ・成分献血ポイントカード配布	・比重不足を重点にし、次回の献血につなげる健康アドバイスリーフレット作成説明実施。 ・栄養士による栄養相談実施。 ・はがき、メールによるリピーター確保。	継続実施
富山県・富山県赤十字血液センター	◎複数回献血クラブ会員募集ポスター、チラシの製作(キャラクターとしてプロ野球独立リーグの地元チーム(BCリーグ)選手を起用)	・ポスターは1,000枚作成 献血協力事業所及び献血推進団体等に発送 ・チラシは20,000枚作成 献血者に配布 ・ホーム試合会場にて、35回ポスター掲示	・県民には関心の高い野球チームであるため、コラボ企画やチーム専属のメディア活用による広報の充実を図る	

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名: 中国・四国地区

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
鳥取県	【若年層献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生ボランティアの参加・協力を得て、「街頭献血キャンペーン」及び「研修会」の開催 ・高校生献血の推進・中学生・高校生を対象とした献血標語 ・ポスターの募集・小学生・中学生を対象とした親子見学会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・約70名の参加があり、高校生自ら献血を行うなど効果的であった。また、研修会では、血液や献血に関する研修は初めてであるという高校生が多かった。 ・保健所及び献血推進員が各高校を個別に訪問し、献血への理解と協力要請を行った。 ・標語:172点 ポスター:44点 ・夏休み中に血液センターで親子見学会を開催するとともに、イベントも行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報媒体を活用した啓発
島根県		<ul style="list-style-type: none"> ・県内全高校生対象に献血に関するクイズ付きのリーフレットを配布、クイズに応募した全問正解者に図書券の贈呈 ・新成人を対象に成分献血に関するリーフレットを配布し、協力を依頼。 ・小学生及び保護者を対象に血液センター見学会及び献血教室を行い、スライドや映像、理解度確認テスト等により必要性を訴えた。 ・近隣の各種専門学校や地元テレビ局のイベント会場等で献血セミナーを行い、必要性を訴えると同時に未経験者へ積極的に呼びかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校献血でも400ml献血主体で取組んだが、対象者が制限されたことにより献血参加が消極的となり、リーフレットの配布も取り組みが鈍く応募数が激減した。 ・市町村が実施する成人式で配布いただき一部会場には、採血車を配車して協力を仰いだ。 ・児童、保護者計36名の参加があり、保護者からは学校行事として取り組みたい旨の要望があったため、平成20年度は実施回数を増やすことも検討する必要がある。 ・献血のことを知らなかったと言われる方の多くに協力いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット配布の趣旨等を学校関係者に十分に説明し、より多くの生徒に届くよう方策を講じる必要がある。 ・遠方の小学校児童も参加できるよう開催方法を工夫する必要がある。
岡山県		<ul style="list-style-type: none"> ・学生献血推進連盟等の活動支援 ・高校生献血の推進 ・高校卒業生に対する献血の推進 ・小学生親子血液センター見学体験教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種キャンペーン等を実施するにあたり、啓発資料提供等、支援を行った。・学生献血推進連盟を支援することにより、同世代である若年層へ献血の必要性を訴えることができた。 ・厚生労働省や岡山県作成のパンフレットを活用したホームルーム活動等を実施した。 高校生の献血者数:1,067人(平成19年度) ・400mL献血が可能となる高校卒業生全生徒を対象に、400mL献血への協力を呼びかける啓発チラシを配布した。 配布数:約20,000枚 ・夏休み期間中、小学生児童の親子を対象に見学体験教室を実施した。 ・県内139校681名(保護者を含む)の参加があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生献血推進連盟構成員の増員及び新規加入校の勧誘を行うことにより、若年層への献血知識の普及を図る。 ・正しい献血知識の普及と献血思想の醸成が必要。 ・400mL献血に対する知識の普及と啓発が必要。 ・幼・小児期からの献血知識の普及及び父兄への献血思想の普及は必要。
広島県		<ul style="list-style-type: none"> ・中高生を対象とした啓発用のポスター圖案募集 ・小学生を対象にした体験学習会の共催 ・学生ボランティア活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島県献血推進ポスター募集 応募総数274名(中学生251名,高校生23名) 最優秀賞1点,優秀賞5点,佳作10点選出 ・血液センター見学会「なるほど献血教室」共催 夏休みの7月31日,8月1日,2日に開催 参加者230名(こども138名,保護者92名) ・中四国学生統一献血キャンペーン(8/12,13) 全国学生クリスマスキャンペーン(12/23) 広報支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・献血離れの著しい若年層献血者の確保と献血意識の向上 ・子どもを通じて保護者への啓発 ・400ml献血がしたくてもできない者(比重不足,体重など)に対するケア 学校での食教育など

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
山口県	【若年層献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> 小学生親子血液センター見学体験教室 小・中学生を対象とした「献血出前講座」の開催 高校生等ボランティアの協力を得た、献血キャンペーンの実施 高校卒業記念献血キャンペーン(3月2～31日) 山口県学生献血推進協議会の育成 献血推進ポスター・作文の募集(中学・高校生)及び表彰式・発表会の開催 献血読本「SEISHUN!献血」作成配布による啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 参加児童から多くの意見・質問・感想をいただき、将来献血可能年齢に達したとき必ず献血をサポートしてくれることが確信できた。 夏期14カ所 冬期10カ所で実施し、多くの高校生ボランティアの参加を得ることができた。 山口市内の高校3年生を対象に実施。 研修会や七夕献血、クリスマスキャンペーン等を通じた啓発の実施・ポスター168点、作文120点の応募があり、献血の必要性を訴えた作品が多い。 高校1年生全員及び、全中学・高校の各クラスへ配布(17,400部) 	<ul style="list-style-type: none"> 小学生など、年少期から献血への理解を深めることが必要であることから、学校(教育委員会)との連携の強化が必要。 献血体験の機会をつくる必要がある。
徳島県		<ul style="list-style-type: none"> 献血メイト20's推進事業 将来にわたって安全な血液製剤を安定して確保するため、若年層(特に20歳代)献血の一層の推進を図る。 ◎メモリアル献血キャンペーンの実施(グループ献血の推進) 献血メイト20's推進キャンペーン事業の実施 ○若年層向け献血啓発小冊子「献血のおはなし」を作成し、成人式の会場等で配布した。 ○中・高校生を対象とした献血推進ポスターの募集、入賞作品の表彰及び展示。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果 若年層への献血思想の啓発が図られた。 問題点 従来、初めて献血を体験する貴重な機会として、高校生の学校内献血を実施してきたが、400mL献血の推進という観点から、19年度途中からこれを休止している。学校内献血の代替となり得るような、効果的な普及啓発及び献血体験の場を確保することに苦慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベント、キャンペーンの効果的なPR ボランティア活動としての献血意識の向上
香川県		<ul style="list-style-type: none"> 高校生や大学生の献血ボランティアを対象としたキャンペーンを実施。 小学生を対象とした親子血液センター見学教室や、献血出前講座を昨年度初めて実施。 若年層が多く集まるプロバスケットボールの試合会場において献血PRイベントを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 献血ボランティアへの参加や、献血に関する基礎的な知識の学習により、なぜ献血が必要なのかを理解してもらえ、自分も献血に協力したいという気持ちに多少なりともつながることができた。 より多くの若年層に普及啓発を図るため、今後は保健所職員等の協力も得ながら、これらの事業を継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地方では、人も予算も減少しており、県レベルでの大々的な広報は難しい。テレビコマーシャルによる広報は、インパクトも強く、非常に効果が高いと考える。国や日赤本社レベルでご検討いただけないか。
愛媛県		<ul style="list-style-type: none"> 小学生親子血液センター見学体験教室の開催 学校に対する普及啓発資料の提供及び献血出張教室の実施。 大学におけるボランティアサークルに対する活動の支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 「見学体験教室」は7月30日から5日間開催し、参加者児童103人、保護者74人の合計177人の参加があった。 将来の若年層に対しては、血液のはたらきや献血に興味をもってもらった。 小学生親子血液センター見学体験教室では、病院での実際の輸血現場も見学してもらい、命の大切さ・尊さについて実感してもらい好評であった。 大学生のボランティアサークルに対しては、献血の正しい知識の普及及び若年層の献血意識の向上を図るための活動を支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> 本県でも若年層献血者数の減少が顕著であるため、将来の「献血予備軍」である小・中学生の普及啓発を行うとともに、大学生・専門学校生に対しての献血呼びかけを推進し、引き続き若年者確保に取り組む必要がある。
高知県		<ul style="list-style-type: none"> ヤング献血スクールとして、高校生を対象に学校での献血体験や呼びかけの体験を実施 血液センター見学会(中学生) 各種団体青年部を対象とした献血セミナー 学生や楽団による献血PR 	<ul style="list-style-type: none"> 私立校2校で延べ3回実施 中学生対象の見学会は参加希望校がなく実施ができなかった。 2回実施。組織的な協力が必要 2回実施。若者を引き付けるものが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会との連携の強化が必要。 校長会や養護教員研修等への参入、献血バス予定表の各学校への配布(まず教職員の協力から)

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
鳥取県	【安定的な集団献血の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ・企業団体献血の推進強化 ・地方自治体による集団献血の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次医療圏ごとに配置している献血推進員が企業団体を訪問し、協力依頼を行っている。 ・県・市町村・血液センターで献血推奨班を編成し、企業訪問を行っている。 ・各市町村との連携強化を図り、効率的な献血者確保を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県・市町村・血液センターとの連携強化が献血推進に効果的であることから、更なる具体的実施事項を明記する。
島根県		<ul style="list-style-type: none"> ・実績に基づき、1稼働当たり、400ml、40本を目標に配車を計画し、ハガキやメールでの要請行動を行い、当日、近隣事業所への協力依頼を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1稼働当たり平均37名の協力を得た。 ・要請を行った2,357人の内、190人(8%)の協力があった。 ・依頼した近隣987事業所中371事業所から協力を得、メイン会場の36.2%で前年度より実績が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働効率を上げるためには、小規模な事業所を数多く回るより、土日開催のイベント等に配車して目標本数を確保することの検討が必要がある。
岡山県		<ul style="list-style-type: none"> ・郊外の大型ショッピングモール等への配車 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候や献血間隔に左右されない県運転免許センター及び大型ショッピングモールへの集中配車を行うことにより、ほぼ安定的に献血者を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な献血者の確保ができる新規献血会場の開拓が必要。
広島県		<ul style="list-style-type: none"> ・血液センターと連携して、職域団体、学校等における献血推進のための呼びかけ ・市町と地域献血組織の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町へ献血推進ポケットティッシュの配布(地域献血推進団体配布用)。 ・血液不足時に県施設において緊急献血実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団献血による適正在庫数の確保 ・不足予想時の緊急対応
山口県		<ul style="list-style-type: none"> ・ライオンズクラブ等各種協力団体、事業所での定期的な献血の実施。 ・新規団体、事業所等への調査、訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年どおり実施 ・国の75出先機関に対し、調査を行うとともに協力要請訪問の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力団体とのコミュニケーションは不可欠
徳島県		<p>血液の不足する時期には、県庁等の大規模な事業所での企業献血を実施。 市町村、各保健所等より移動採血車の配車日を広報しPRしている。</p>	<p>計画的な配車により、安定的に血液を確保することができた。</p>	<p>新たな協力企業の開拓</p>
香川県		<ul style="list-style-type: none"> ・市町担当者会を実施し、市町の責務について再確認し、地域献血の推進を図った。 ・献血優良団体や積極的な献血推進団体に対し、知事から直接、表彰状の授与・伝達を行った。 ・献血サポーター制度の活用。 ・過去に献血実績はあるが、しばらく献血を行っていない事業所の再開拓に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町の献血担当者が複数の業務を兼務しており、献血に関わる時間が限られている。そこで担当課長会を開催することで、献血の重要性を認識してもらい、推進に努めてもらった。 ・献血に理解のある団体を表彰することで、今後の積極的な取組みにつなげることができるものの、人口規模や企業数の少ない本県では、将来にわたって新たな団体を表彰し続けることは困難である。 ・献血サポーターに指定された団体名は、ホームページに掲載されているものの、より効果を高めるため、他の広報媒体による周知も必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰制度の価値をより高めるため、表彰団体数の検討が必要であると考ええる。 ・献血サポーターのロゴマークの周知をはじめ、サポーター団体名の積極的な広報が必要である。
愛媛県		<ul style="list-style-type: none"> ・企業等組織的な献血の協力団体に対し、協力回数を増やしてもらうよう要請。 ・新規協力事業所の発掘。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な献血者の確保。 ・約60団体の協力団体。(ライオンズクラブ・建設業協会)(問題点)協力団体構成員の高齢化の進行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力団体、協力事業所の確保は安定的な血液の確保につながるため、引き続き取り組む。

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
高知県		<ul style="list-style-type: none"> ・高知市内LC合同献血 ・商工会青年部、県遊戯業協同組合による県下的な取り組み ・専門学校による1000人献血キャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な呼びかけ、献血協力が得られた。 ・新たな献血者が確保できた。 ・H18.6月にスタートし、1年後のH19.6月に目標を達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年会議所への働きかけを行う ・高知市内LC献血推進研究会の立ち上げをお願いする。 ・企業に対して、献血サポーター登録をお願いする。
鳥取県	【複数回献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血クラブ会員の更なる募集 ・街頭献血への協力の呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員への情報誌やチラシの発送とともに、血液不足時にメール等で協力依頼を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定的な献血者の確保及び緊急時の即時対応が行える体制作りと登録者へのサービス内容。
島根県		<ul style="list-style-type: none"> ・献血者全員に「複数回献血者クラブ」入会募集のパンフレットを配布し、入会を促した。 ・400ml献血登録者を募集した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動採血で400ml献血いただいた14,685人中708人(4.8%)に入会をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入会のメリットを積極的にアピール
岡山県		<ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血クラブ「ももたろうEメールクラブ」の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・募集用パンフレットを作成し、全献血者に配布し、登録への依頼を行った。 ・検査及び着メロのサービス等、メリットを訴えた。会員数:1,443人(平成19年度末現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・メールによる操作が必要なため、登録まで至らないこともあるため、引き続き、献血実施後の休憩時間等を利用して、現場での登録を推進する必要がある。
広島県		<ul style="list-style-type: none"> ・次回献血を促す資材の作成、配布 ・不適格者(比重不足)に対する健康管理のアドバイスなどのサービス提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発パンフレットの作成、配布 ・比重不足により献血できない方に対して、健康管理のためのリーフレット配布 ・献血ルームにおいて栄養士による栄養相談実施(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・献血不適格者へのフォローアップ及び次回献血の案内等による計画的な年間献血者の確保
山口県		<ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血クラブチーム35会員の募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・メールやDM等を活用した献血依頼の実施(現在会員約900名) 	
徳島県		<ul style="list-style-type: none"> ・過去の献血協力者を対象とした、ハガキによる献血依頼等(血液センター) ・複数回献血者への記念品の贈呈 ・複数回献血クラブ(Let'sけんけつクラブ)への登録(血液センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな複数回献血者が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初回献血から複数回献血への移行の推進
香川県		<ul style="list-style-type: none"> ・献血依頼のハガキに複数回献血クラブへの登録の案内を掲載し、推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生を中心とした若年層の献血者の登録があったものの、登録数があまり増えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員特典の充実や広報により、登録者数増につなげたい。
愛媛県		<ul style="list-style-type: none"> ・血液センターにおいて「複数回献血クラブ(愛称:リピートあいビー)」を設置。 ・年2回以上複数回の献血に協力してもらえる献血者を募集。携帯電話やパソコンから登録、メールで献血を依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・19年度までの会員登録総数は867人。 ・緊急時の献血者確保につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者数の増加を図るために、積極的に広報を行う。
高知県		<ul style="list-style-type: none"> ・複数回献血用推進パンフレット、チラシ、推進カードの配布。献血メールクラブの活用 ・協力団体から名簿の提供→ダイレクトコール ・栄養相談、健康相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回クラブ会員は徐々に増加傾向にあり、献血への参加実数も増加している。 ・栄養相談、健康相談はいまひとつ盛り上がりに欠けたことから、企画を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比重落ちの献血者への健康管理に対しての指導。

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

ブロック名：九州地区

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
福岡県	【若年層献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ○学生献血推進協議会を中心とした啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> ・定例会、リーダー研修会の実施 ・献血キャンペーン中に学生によるイベントの実施 ○小学生を対象とした冊子の作成・配布 ◎小学校・中学校への出張授業の実施 ◎大学生のインターンシップ受け入れ ◎インターネットを活用した啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○・リーダー研修会 1泊2日 約60人参加 <ul style="list-style-type: none"> ・学生メンバーの企画によるクイズ、アトラクション、模擬店などを実施し、同世代へ献血参加を呼びかけた。(延べ参加者約200名) ○県内小学校194校に対し18,800部を配付し、次の世代への啓発を行った。 ◎学校からの要請により献血の大切さを教える出張授業を実施した。(2校 201人) ◎血液センターへの就労体験に県内の大学生を受け入れ、血液事業への理解を深めてもらった。(県内7大学から9名 各10日間) ◎献血の基礎知識、献血バス運行予定表、Q&Aなどを県のホームページに掲載し情報提供を行った。 	○新規の若年層の献血者確保のため、インターネット等若年層に利用の多い媒体による啓発
長崎県	【若年層献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ○教育現場における献血の推進 ◎ 県内中学生及び高校生を対象とした献血普及啓発ポスターの募集 ○ 学生献血者の確保及び学生への啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県高等学校長会、養護教諭理事会における献血普及啓発への協力の要請 ○ 合計63点の応募 ○ 学生ボランティア対象の研修会実施(30名程度参加) ○ 専門学校等の血液センター見学会実施(長崎50名参加、佐世保50名参加) ○ サマーイベント等の際に学生による献血呼びかけや記念品配布等 	○応募数増加のために募集時期等を考慮する必要がある。
熊本県	【若年層献血者の確保について】	<ol style="list-style-type: none"> 1 熊本県学生献血推進協議会への支援 10大学(12校舎)の学生献血推進リーダーへの研修、学園祭等での献血推進 2 小・中・高校生対策 啓発チラシ・グッズの配布(小・中・高の各卒業生用として各2万部配布) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 各キャンペーン(学生献血クリスマス、はたちの献血)等において、学生が献血を呼びかけることにより、特に若い世代間の連帯感を育むとともに、将来的に献血者を確保する。 2 献血について、若いうちから意識付ける。 	日頃から学内等において効果的な啓発活動を展開し、献血未経験者の増加を図る方策の検討。

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
大分県	【若年層献血者の確保について】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校PTA献血 2. 中学生の施設見学及びボランティアの受入れ 3. 高校生対象の学内献血(400mL献血)の実施 4. 高校JRC生徒に対する献血についての講話 5. 学生対象の成分献血希望者の送迎 6. 青年会議所等への講話、ビデオ鑑賞 7. 学生主催献血イベントの実施 J-1サッカー試合前ピッチでの啓発活動 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 父母の献血をする姿を見ることにより献血の啓発に繋がった。(問題点)母親が比重不足等で献血が出来ないケースが多い。 (小学校5校、幼稚園 日曜日) 2. 血液センターの施設見学、概要説明や献血ルームでのボランティア活動を通して献血の重要性を学んでもらった。(問題点)集約化により検査、製剤業務が無いので、今後は九州センターへの施設見学になるかと思われる。 3. ほとんどの学校にお願いに行ったが学校現場における400mL献血は困難。(問題点)先生方の献血に対する認識、意識が希薄であること及び授業時間に及ぼす影響で問題がある。 4. JRC生徒に献血への理解を深めてもらい、献血受付時のボランティアとしての活動にも協力頂いた。 5. 献血ルームにおける初回献血者を含む成分献血者が増加。 6. 献血の必要性に対する理解が深まり、会議所主催献血時の献血者の増加。 7. 入場している全てのサポーターへアピールができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. PTA献血に取り組むことで、家庭内における献血の会話ができること。また、校内での献血風景が見られことにより生きた献血の啓発活動ができる。 2. 九州血液センターとして施設への見学者(団体)の受入れ体制はできている。 3. 学校側への継続的な働きかけが必要。 4. 講話のみならず、ボランティアとして献血活動に協力いただくことにより、より理解を深めてもらう。 5. 学生は入れ替わるので毎年継続的なPRが必要。 6. 若年層献血に繋がる組織的な協力団体の開拓(商工青年部・学生自治会・体育会など)
宮崎県	【若年層献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層を対象に献血呼びかけのテレビCMを「はたちの献血キャンペーン」の期間に放映。 ・ 学生献血推進協議会を中心に献血者確保のイベント実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CM出演者が、知事及び地元出身歌手と話題性はあったが、献血者の増加につながったかどうかの効果判断が困難。 ・ 学生ボランティアが呼びかけることで、その友人や同世代の若者への啓発・献血協力が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中高校生への献血啓発手段の検討が必要。
鹿児島県	【若年層献血者の確保について】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生を対象とした献血おもしろゼミナール ・ 中学生3年生を対象とした血液教育事業 ・ 県学生献血推進協議会の育成・強化 ・ 九州ブロック学生献血推進サミットin鹿児島島の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献血可能年齢に達した時の献血への協力が得られた。 (200校、16,680人) ・ 同世代の者が呼びかけることにより、若年層に対し、効果的な献血思想の啓発が図られるとともに、「九州ブロック学生献血推進サミットin鹿児島」の開催で活動が活発化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献血キャラクター「けんけつちゃん」の活用。(啓発用Tシャツの作成等) ・ 高校生献血の拡大(教師・PTAを取り組む) ・ 献血不適合者のフォローアップ
沖縄県	【若年層献血者の確保について】	<p>将来の献血制度を支えていく高校生を対象に「献血教室」を実施している。</p>	<p>献血教室は、血液の仕組み等と輸血体験談の2部で構成しており、実際に輸血で命をつないだ方の体験談をとおし、献血の大切を実感してもらっている。</p> <p>しかし、献血教室の開催については、学校側の指導要領に含まれていないため、同じ高校しか行っていないのが現状である。</p>	

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
佐賀県	【若年層献血者の確保について】	1.学生献血推進委員の研修 2.「はたちの献血キャンペーン」に併せたイベントの開催 ◎3.映画館での献血啓発CM放映 4.卒業前高校献血教室 5.大学、専門学校等での献血協力者へ献血啓発品を配布 6.ライオンズクラブ共催による大学献血	1.献血の基礎知識習得。 2.献血クイズなどを通し献血の知識を普及。若者の献血 3.若者が集まる映画館でCMを通し献血への呼びかけ。(2箇所の映画館:3コマ静止画2ヶ月、15秒動画1ヶ月放映) 4.卒業間近の3年生に献血の基礎知識を習得。実施校を増やす必要有り(現在2校)。 5.初めての献血のきっかけになった。 6.ライオンズクラブからの共催記念品が好評。	高校生などを対象とした献血教室の実施。
福岡県	【安定的な集団献血の確保について】	○献血協力団体・市町村担当者研修会の開催 ライオンズクラブとの合同研修会 福岡県における献血事業についての説明 献血の必要性についての講話 ○ライオンズクラブ、血液センター、県の三者による意見交換会	○血液事業の現状と課題について説明し、献血に対する協力を呼びかけた。 県内4地区で計6回開催 計454名参加 ○献血事業を進める上での課題と対応策について意見交換を行うことができた。	○行政、企業、各協力団体との連携の推進 行政、企業、各協力団体と連携して情報交換、意見交換の場を設け、血液事業への理解促進、協力体制の強化を図る。
長崎県	【安定的な集団献血の確保について】	○新規事業所及び献血協力団体の開拓	○19年度は59団体を新たに開拓(毎月5団体開拓する事業目標)	
熊本県	【安定的な集団献血の確保について】	献血推進リーダーの活用 (リーダー:献血協力団体等において、その組織における献血啓発と献血計画等行政との連絡・調整に当たる者を献血推進リーダーとして県が委嘱。 リーダー数:430人)	安全で安定した血液の確保が見込まれるが、献血者の固定化傾向が見られ、献血未経験者との二極化が懸念されることから、更に効果的な啓発等施策を講じて献血経験者を増やしていく必要がある。	献血未経験者や献血から遠ざかっている人達を掘り起こし、献血会場へ向かわせる方策の検討。
大分県	【安定的な集団献血の確保について】	1. 自衛隊駐屯地における年間献血実施回数増への取り組み 2. 地元ラジオ局(1局)の血液センター有料放送枠の中で企業、団体献血協力の呼びかけ放送実施(平成19年11月から放送) 3. 学内献血実施時の特別処遇品の進呈	1. 19年度下半期に3箇所の駐屯地司令との話し合いで20年度に回数を増やして実施(3駐屯地計年9回→年14回へ) 2. 2団体が協力 (実績200mL献血:6人、400mL献血:52人) 3. 若年層献血者が減少する中で対前年比400mL献血者は若干増加(学推協加盟校実績2,204人→2,260人)	1. 20年度実績を踏まえ3駐屯地とも年6回実施に向けて推進を図る
宮崎県	【安定的な集団献血の確保について】	・献血協力企業や団体への献血推進リーダーの設置及び研修会の開催。 ・成分献血協力企業名の新聞掲載 ・献血サポーター事業への参加推進(平成20年度新規事業)	・企業や団体に、推進リーダーを設置することで、より一層の献血協力を図り、献血者を安定的に確保することが期待できる。 ・企業の献血貢献をアピールし、県民にも成分献血を認識してもらえる。 ・献血サポーター事業によるサポーターマークの活用事例が少なく、参加要請し難い。	・新たな協力企業の確保。 ・全国レベルでのサポーターマーク使用の参考となる事例の紹介。
鹿児島県	【安定的な集団献血の確保について】	・ライオンズクラブ献血推進セミナー ・市町村献血推進協議会の再構築	・セミナー参加者:74名 ・市町村合併及び財政難のため活性化がむずかしい。	・市町村献血推進協議会及びボランティア団体が連携した広報活動の強化 ・献血協力事業所の新規開拓

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。

「献血構造改革」の主な事項に関する取組

都道府県名	事項名	取組の概要(取組で重点を置く事柄を含む。)	実施結果(効果、問題点等)	平成21年度計画作成に当たり参考となる事項
沖縄県	【安定的な集団献血の確保について】	各保健所に献血推進員を配置し、直に企業等へ献血の協力を依頼している。	献血推進員が直に企業へ献血を依頼するため、即実績となる。	
佐賀県	【安定的な集団献血の確保について】	1. 献血協力企業団体への協力依頼。 2. 地域献血の強化について市町担当者に依頼。	1. 保健福祉事務所担当が、直接事業所へ協力依頼に向くことが少なくなっている。 ライオンズクラブの研修会ができなかった。 2. 地域献血の協力が少ない	1. 継続した献血への協力依頼が必要。2. 献血協力団体であるライオンズクラブと共催することで高い実績を得られることがある。
福岡県	【複数回献血者の確保について】	○成分・全血献血者の登録の実施 固定施設(献血ルーム)及び移動採血会場において登録を依頼し、登録者に対して電話、ハガキ、メールによる依頼を実施 ○県職員の登録	○登録者数は順調に伸びている。 H19年度末登録者数 ()内18年度末 ・PC-CLUB 2,482人 (1,713人) ・メールクラブ 1,523人 (460人) ・400mL献血 391人 (H19.5.21～) ○血液不足時における協力依頼	○今までは、血小板を主体とした登録を行っていたが例年冬季に赤血球が不足するため、平成19年5月から血液型不足に対しても対応できるよう400ml献血の登録を継続している。
長崎県	【複数回献血者の確保について】	○400mL・PC献血クラブの会員を募集	○19年度は新たに354名を登録	
熊本県	【複数回献血者の確保について】	血液センターが取り組んでいる年間を通して複数回の献血に協力可能な人で構成する「複数回献血クラブ」の推進支援	複数回献血クラブ会員に対し、血液型別不足時の緊急的な献血依頼や複数回献血への積極的協力を依頼した。	複数回献血を呼びかける「知事からのメッセージ」作成検討中。
大分県	【複数回献血者の確保について】	検査結果異常なしの初回献血者及び献血ルームでのリピーターに登録のお願い文書を出し、年間目標の確保。 ・宮崎県複数回献血クラブの登録推進。	19年度入会者732人を確保。安全な輸血用血液の確保。 ・登録者数がなかなか伸びない。	広報誌、冊子等へ掲載してPR。 ・年に1回の献血協力者に対し、2回目以降の協力をお願いして、クラブへの登録を推進。
鹿児島県	【複数回献血者の確保について】	・複数回献血クラブの普及啓発	・クラブ会員数:699名 前年比:237% 平成20年3月末 ・10/20(土)、11/10(火)実施	・会員特典のPR ・献血登録者の同クラブへの移行 ・夏場の献血協力者に対して、更に冬場の献血も要請していく。
沖縄県	【複数回献血者の確保について】	◎献血に対する正しい知識を県民にもってもらうため、県の広報番組で「献血について」を作製し、放映した。その中で、複数回献血者の登録制度を紹介した。	市町村の協力のもと、複数回献血者確保対策に取り組む必要がある。	
佐賀県	【複数回献血者の確保について】	登録用パンフレットを活用して案内。	平成20年3月末現在760人	登録者に対しリーフレット・情報誌等の配布、健康相談を行う。

(注)「取組の概要」欄の◎印の表示は平成19年度新規事業。また、参考として平成20年度新規事業についても併せて記載。